

湯村の旅館に新潮流

ワーケーションやヘルスケア強化

新温泉町湯の湯村温泉に、ワーケーションやヘルスケアなどを前面に打ち出す旅館が続々と誕生している。宿泊に特化した従来型の旅館とは異なり、多様化する観光客のニーズに対応。歴史ある温泉街に起きている新たな潮流に、地元の観光関係者は「観光の幅が広がる」と期待を膨らませている。

(竹内涼子)



プロジェクターなどを備えた会議室＝新温泉町湯の「湯村温泉緑屋」

多様観光ニーズに対応

快適に長期滞在

4月1日、廃業していた老舗旅館の建物をリニューアルした「湯村温泉緑屋」がグランドオープンした。

出資したのは、宿泊施設の管理システムの開発や販売などを行う陣屋コネクト（神奈川県）。同館の特徴の一つが、新型コロナウイルス禍で需要が高まったワーケーションに対応している点だ。高速Wi-Fiやプロジェクター、ホワイトボードなどを備えた会議室を3室設けたほか、フリーイトスペースのドリンクや宿泊者向けの洗濯機などが無料で利用でき、長期間でも快適に過ごせる環境が整う。1棟貸しも行っており、家族のイベントや社員研修などにも利用できる。

同旅館の重田幸太郎社長は「今後はレンタサイクルで温泉街を回る仕掛けを作る